

International University of Health and Welfare
「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

2025.5.31 発行

vol. **141**



大田原キャンパスにて

特集

令和7年度 入学式／令和6年度 学位記授与式
新任のごあいさつ
開学30周年 特別企画



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

CONTENTS

vol.141

May 2025

03

特集

令和7年度 国際医療福祉大学入学式

式辞 高木邦格理事長

大田原キャンパス／成田キャンパス／東京赤坂キャンパス／

小田原キャンパス／大川キャンパス

塩谷看護専門学校 卒業式・入学式／新入生概要



06

特集

令和6年度 国際医療福祉大学学位記授与式

大田原キャンパス／成田キャンパス／東京赤坂キャンパス／

小田原キャンパス／大川キャンパス／大学院生総代 大学院長賞

理事長賞、学長賞・卒業生総代



10

新任のごあいさつ

14

トピックス

成田地区本学グループ3施設の連携

15

2024年度 博士課程修了者・論文博士合格者一覧

16

海外保健福祉事情

2024年度冬季実施

20

開学30周年特別企画

■写真で振り返る
開学の地『大田原キャンパス』

■ご寄附のお願い

■同窓生からのメッセージ



24

2024年度 国家資格試験結果

令和7年度 国際医療福祉大学 医学検査学科開設記念式典ならびに入学式 式辞

2025年4月8日 大田原キャンパス 体育館にて

学校法人 国際医療福祉大学

理事長

高木 邦格



新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。また、これまで新入生の皆様を支えてこられた保護者の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。本日は、国際医療福祉大学大田原キャンパスの医学検査学科開設記念式典を兼ねた入学式という特別な場に立ち会えることを、大変光栄に思っております。

開学30周年を迎えた今年は、本学に2,780人の新入生を迎えることができました。ここ大田原キャンパスには、学部生957人、大学院の修士32人、博士14人、合計1,003人が入学し、その中には新設された医学検査学科の皆様も含まれています。数ある大学から本学を選んでくださったことに心から感謝申し上げます。

30周年を記念して、大学施設のリニューアルやグラウンド整備、さらに地方の学生や留学生向けの学生寮の建設など、数十億円規模の設備投資を進めています。その中でも特に重要な取り組みが、大田原キャンパス医学検査学科の新設です。開学30周年にあたり栃木県に対して何か恩返しできることはないかと考えておりましたところ、栃木県にはこれまで4年制大学の臨床検査技師養成課程が存在せず、また東北地方全体を見ても私立大学での設置がないという現状に気づき、地域の医療ニーズに応えるべく、30周年記念事業の一環として本学科を設立する運びとなりました。県からも多大なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

私どもは、新型コロナウイルス感染症拡大時に、全国に先駆けて1日に1,000人のPCR検査ができる体制を整えました。厚労省の要請を受けて最前線に対応し、ダイヤモンドプリンセス号や成田空港、武漢からの帰国

者が寄宿した税務大学校などでPCR検査を行ってきましたが、その際、臨床検査技師の不足が深刻な課題であることを痛感し、育成が急務であると強く感じました。

臨床検査技師は今や、PCR検査以外にも遺伝子診断、脳波検査、呼吸機能検査などを行う花形の職業です。世界的に見ても日本の臨床検査技師ほど幅広く仕事ができる職種はなかなかありません。ここにいる医学検査学科1期生は、将来、栃木県や東北全体の検査の分野を牽引していく皆様だと思いますので、本学でよく学び、社会に貢献していただくことを期待しております。

30周年ですので、少し本学の歴史を振り返りますが、私自身は福岡県大川市で1910年に開院した高木眼科医院（のちの高木病院）に生まれ育ちました。縁あって栃木県で温泉を活用した施設を作ってほしいと要請があったことから老人保健施設の建設を計画、提案したことが本学創設のきっかけとなりました。当時、県内には理学療法士や作業療法士がほとんどおらず、福岡県から医療福祉専門職を呼んで施設を運営した経験が、地域との信頼関係を築く礎となりました。

その後、厚生省が医療・福祉分野の専門職教育を大学・大学院レベルに引き上げる「保健医療総合大学構想」を打ち出したことを受け、栃木県や大田原市と連携し、日本初の医療福祉総合大学となる本学を設立しました。初代学長には、ハンセン病患者の人権保護活動の指導者として尽力した大谷藤郎先生に就任をお願いしたところ、「医療と福祉を一体的に学ぶべき」との理念をお持ちで、福祉学科を設置することを条件に引き受けていただきました。他にも各分野の第

一人者が教員として本学に集結しました。

開学当初から全国から優秀な学生が集まり、保健学部（のちに保健医療学部）に改称）の5学科はいずれも高い人気を誇りました。現在では、5キャンパスに11学部28学科を擁する大学となり、これまでに約37,000人の卒業生を輩出しました。全国のキャンパスで学部・大学院あわせて約10,000人の学生が学んでいます。2017年には、チーム医療の先頭となる医師の育成のため成田キャンパスに医学部を設置し、英語による授業や4週間以上の海外実習など革新的な医学教育を実施しています。2025年卒業の三期生は医師国家試験合格率100%を達成し、米国の医師国家試験合格者も多数輩出するなど、国際的にも高い評価を得ています。

これまでの30年は、医療福祉専門職の不足という課題に応えるかたちで歩んできた本学ですが、これからは、少子化と国際化が進むなかで、皆様一人ひとりが新たな歴史を築いていく時代です。皆様には、医療福祉の専門職として、国内外で医療福祉分野をリードする力を身につけていただきたいと願っています。本学は机上での学びはもちろん、6つの附属病院と臨床医学研究センターとして学生の実習を受け入れる多数の福祉施設を備え、実践的な学びの場を提供していますので、こうした環境を十分に活用してほしいと思います。

この豊かな自然に囲まれたキャンパスで、学業だけでなく、スポーツや趣味、教養も深めながら、健康で実り多い学生生活を送ってください。皆様のこれからの成長と活躍を、心より期待しています。

令和7年度 国際医療福祉大学入学式

大田原キャンパス

医学検査学科開設記念式典ならびに令和7年度入学式挙行

4月8日 那須アスリーナ

4月8日、臨床検査技師を養成するため開学30周年の節目にスタートする医学検査学科の「開設記念式典ならびに令和7年度入学式」が挙行された。

式典で高木邦格理事長は、コロナ禍で活躍した臨床検査技師について触れ「臨床検査技師は幅広く重要な仕事を担っている。栃木県や東北地方を引っ張っていくような臨床検査技師となり社会に貢献してほしい」と式辞。新入生に対しては「これからの30年は皆さんが新たな歴史を刻んでほしい」と期待を寄せた。

大田原キャンパスの新入生は医学検査学科の86人を含む学部

生が957人。大学院生が46人の計1,003人。栃木県の福田富一知事、大田原市の相馬憲一市長ら来賓も多数参列した。鈴木康裕学長の式辞、福田知事らの祝辞の後、新入生を代表して医学検査学科の青木莉央さんが「知識、経験を積み、医療現場で信頼され、貢献できるようにしたい。困難もあるだろうが、その一つひとつが積み重ねになる」と決意の言葉を述べた。（入試広報室 大塚順一）



●青木莉央さん

成田キャンパス

4月6日 国際医療福祉大学成田病院成田国際ホール

成田キャンパスの入学式が4月6日、国際医療福祉大学成田病院成田国際ホールで行われた。医学部、成田看護学部、成田保健医療学部、成田薬学部、介護福祉特別専攻科、大学院の新入生計789名が入学した。

式典では、高木邦格理事長、鈴木康裕学長、矢富裕大学院長が式辞を述べ、来賓の小泉一成成田市長から祝辞をいただいた。新入生誓いの言葉では、藤井茉桜さん（成田看護学部）が「専門性のある知識だけでなく『チーム医療・チームケア』についても学び、互いに助け合い、より高度な技術を提供できる専門職をめざす」、ルアン フー フンさん（医学部奨学生・ベトナム）は「医師となり、将来母国の医療分野のリーダーになれるよう努力して学ぶ」、西嶋亜未さん（大学院博士課程医学研究科）は「将来の医療の発展に貢献できるよう、研究に励む」と、それぞれに決意を語った。

（広報 城貴弘）



●藤井茉桜さん

小田原キャンパス

4月7日 城内校舎体育館

4月7日、小田原キャンパス城内校舎にて小田原保健医療学部・大学院の入学式が行われた。学部新入生221人（看護学科89人、理学療法学科91人、作業療法学科41人）と小田原・熱海キャンパスに所属する大学院新入生12人が入学した。

式典では、鈴木康裕学長、矢富裕大学院長の式辞の後、加藤憲一小田原市長より祝辞をいただいた。続いて、学部新入生を代表して鈴木菜央さん（看護学科）、大学院新入生を代表して宮山涼子さん（博士課程）が誓いのことばを述べた。最後に高木邦彰専務理事より壇上の教員が紹介され、式は滞りなく終了した。

夢と希望を胸に晴々しい表情で式典に臨んだ新入生たちの姿に、キャンパス内や近くの城址公園の木々も彼らの入学を祝うかのような桜花爛漫の景色を見せてくれた。

（総務課 下村達典）



●鈴木菜央さん

東京赤坂キャンパス

4月9日 講堂

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部（心理学科66名、医療マネジメント学科61名）および大学院（博士課程58名、修士課程194名）の新入生、あわせて379名が新たな門出を迎えた。

新入生代表からは力強い決意が述べられた。学部代表・医療マネジメント学科の東田夏希さんは「同じ夢を持つ仲間たちと切磋琢磨し、その夢を達成するために日々精進してまいります」と抱負を語った。また、大学院代表・看護学分野の松井ひろみさんは「より良い社会をつくる一翼を担い、新たな時代へとつなぐ役割を積極的に果たしてまいります」と決意を表明した。

鈴木学長からは「transition（移行）」「diversity（多様性）」「challenge（挑戦）」の3つの言葉をキーワードに、「失敗を恐れないことの大切さ」や「皆さんを全力で支えるために私たちはここにいる。ともに成長できることに、これ以上の喜びはありません」といった激励の言葉が贈られた。（事務部 富崎知尋）



●東田夏希さん

大川キャンパス

4月3日 講堂

大川キャンパスでは4月3日、福岡保健医療学部・福岡薬学部341人、大学院に28人の新入生を迎えて入学式を執り行った。式典では、鈴木康裕学長、矢富裕大学院長、高木邦格理事長の式辞に続いて、江藤義行大川市長、秋田章二福岡県議会議員より祝辞をいただいた。さらに、新入生を代表して理学療法学科の能丸莉実さんが「夢や目標に向かって努力を惜しむことなく学業に励み、意義ある大学生活を送りたい」、大学院保健医療学専攻の本堀翔大さんが「社会的意義のある研究活動を目指しと定め、専門職としてさらなる成長を遂げたい」と誓いのことばを述べた。（広報 帆足リエ）



●能丸莉実さん



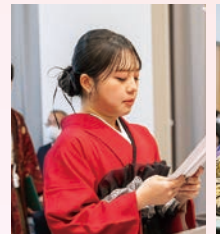
●入学式に臨む新入生一同

国際医療福祉大学 塩谷看護専門学校 卒業式・入学式

卒業式

3月4日、本校講堂にて2024年度卒業式が行われた。国際医療福祉大学の鈴木康裕学長より式辞をいただき、34人の新たな門出を祝った。式では、須田康文学学校長が卒業生に卒業証書を手渡し、「これから社会に出て働く力を持つこと、感謝すること、知識を知恵にかえること、この3つを忘れないで前に進んでください」と、はなむけの言葉を贈った。その後、卒業生代表の横田芽依さんが「看護を学んでいくなかで、自分のあり方に悩んでいた時、実習を乗り越えられたのは仲間がいたからです。患者様への援助やコミュニケーションがうまくいけば一緒に喜んでくれ、困った時は一緒に悩んでくれました。たくさんの感情を共有し、分かち合うことができました。17回生のみんな、出会えて本当によかった。ありがとう」と答辞を述べた。

卒業生は気持ちを新たに、看護の道の第一歩を踏み出した。卒業生のさらなる飛躍と今後の活躍を教職員一同期待している。

●答辞を述べる
横田芽依さん●卒業証書を授与される
木村萌さん

入学式

2025年度入学式が4月9日、本校講堂にて執り行われ、新たに37人が入学した。式では、4月1日付で着任した小見山智恵子学校長が「確かな専門知識と技術を駆使して、自らの実践と行動で、心温まる看護を提供できるよう、一緒に学び、自分を磨いてまいります」と激励の言葉を贈った。

続いて在校生代表として、3年生の相田翔生さんが「本校での学びや出会いを通じて得た経験は、看護学生としてだけでなく、一人の人間としての成長につながるはずです。皆さんが充実した学校生活を送り、看護師としての第一歩を力強く踏み出せることを心より願っています」と歓迎の言葉を述べた。これを受けて、新入生代表の倉持姫愛さんが誓いの言葉として、「私たち新入生一同は、患者様の痛みや不安に寄り添える看護師をめざし、日々努力し、学び続けることを忘れません。ここにいる仲間とともに切磋琢磨し、看護の道を進む者としての自覚と責任を持ち、誠実に学び続けることを誓います」と述べた。

学生一人ひとりに寄り添い、すべての学生にとってより良い成長の一年になるよう、教職員一同、全力で取り組んでいきたい。（事務部 田島鮎子）



●誓いの言葉

●歓迎の言葉を聞く
新入生一同

学校長 着任のごあいさつ



国際医療福祉大学
塩谷看護専門学校 学校長
小見山 智恵子

千葉大学大学院修士課程修了（看護学修士）。東京大学医学部附属病院看護部長、副院長を経て本学に着任。国際医療福祉大学生涯学習センター看護部門統括責任者、グループ病院統括看護部長、医療人材開発部長を兼務。

このたび塩谷看護専門学校の学校長を拝命いたしました。代々、塩谷病院長がお務めになられてきた役割に看護職である私を任命していただきましたのは、看護職育成に対する看護職への期待と認識し、身の引き締まる思いです。看護専門学校を取り巻く環境は非常に厳しいですが、地域社会に貢献できる看護実践者の育成を目指し、無限の可能性をもつ学生と丁寧な教育の双方の力で乗り越えていきたいと思ひます。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和7年度 学部・大学院・特別専攻科 新入生概要

学部新入生概要			
キャンパス	学部	学科	入学者数
大田原	保健医療学部	看護学科	119
		理学療法学科	108
		作業療法学科	84
		言語聴覚学科	81
		視機能療法学科	55
		医学検査学科【2025.4開設】	86
		放射線・情報科学科	126
		医療福祉学部	医療福祉・マネジメント学科
	薬学部	薬学科	194
	大田原キャンパス合計		957
成 田	医学部	医学科	148
	成田看護学部	看護学科	109
	成田保健医療学部	理学療法学科	85
		作業療法学科	42
		言語聴覚学科	46
		放射線・情報科学科	52
		医学検査学科	85
		成田薬学部	薬学科
	成田キャンパス合計		707
東京赤坂	赤坂心理・医療福祉マネジメント学部	心理学科	66
		医療マネジメント学科	61
	東京赤坂キャンパス合計		127
小田原	小田原保健医療学部	看護学科	89
		理学療法学科	91
		作業療法学科	41
	小田原キャンパス合計		221

大学院新入生概要			
キャンパス	学部	学科	入学者数
大 川	福岡保健医療学部	看護学科	65
		理学療法学科	45
		作業療法学科	16
		医学検査学科	83
	福岡薬学部	薬学科	132
	大川キャンパス合計		341
全学部合計			2,353
大学院新入生概要			
課程	研究科	専攻	入学者数
修士課程	医学研究科	公衆衛生学専攻（専門職学位課程）	25
	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	185
		医療福祉経営専攻	49
		臨床心理学専攻	35
	薬科学研究科	生命薬科学専攻	0
	修士課程合計		294
博士課程	医学研究科	医学専攻	30
	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	78
	薬学研究科	医療・生命薬学専攻	6
	博士課程合計		114
大学院合計			408
特別専攻科新入生概要			
介護福祉特別専攻科			22

令和6年度 国際医療福祉大学学位記授与式

大学院生総代 大学院院長賞

大田原 キャンパス



●鈴木学長から学位記を授与される井田裕葵さん

大田原キャンパスの学位記授与式が3月11日、那須アスリーナで行われ、3学部8学科の学部生810人、大学院修了生47人に学位記が授与された。

鈴木康裕学長は式辞で「社会で待っているのは正解がわからない問いに対して諦めずに答え続けるという試練。夢を大きく持ちその試練を乗り越えてほしい」と激励。

矢富裕大学院長、高木邦格理事長の式辞の後、来賓の相馬憲一大田原市長、岩佐景一郎栃木県保健福祉部長から祝辞をいただいた。

このあと学部生総代の井田裕葵さん（放射線・情報科学科）、大学院修了生総代の松本千晶さん（理学療法学科教員）が謝辞を述べた。

井田さんは「日々精進し、互いに支えあい、刺激を与え合える社会人になれるよう努力する」と決意を語った。

（入試広報室 大塚順一）

3月11日 那須アスリーナ

成田 キャンパス



●式辞を述べる鈴木学長

成田キャンパスの学位記授与式が3月9日、国際医療福祉大学成田病院成田国際ホールにて執り行われた。医学部126人、成田看護学部101人、成田保健医療学部303人、大学院博士課程10人、修士課程36人の計576人に学位記が授与された。また、臨床工学特別専攻科10人、および、今年度一期生が修了となる介護福祉特別専攻科20人に修了証書が授与された。

鈴木学長の式辞に続き、謝辞では、山本遥暉さん（学部代表）が「医療従事者として学び続ける姿勢を忘れず一歩ずつ前進していきたい」、医学部留学生のファム クオック ホアンさん（奨学生代表）が「正義感を持ち、人々を支え、励ます存在になれるよう精進したい」、平山大貴さん（大学院総代）が「大学院で培った臨床力、研究力、人間力をさらに高めていきたい」と志を新たにした。

（広報 城貴弘）

3月9日 国際医療福祉大学成田病院成田国際ホール



●学長賞を受賞した心理学科の太田麻里菜さん

東京赤坂 キャンパス

東京赤坂キャンパスの学位記授与式が3月8日に執り行われ、赤坂心理・医療マネジメント学部の卒業生106人（心理学科51人、医療マネジメント学科55人）、大学院の修了生369人（博士課程67人、修士課程302人）に学位記が授与された。式典では、卒業生代表と修了生代表それぞれが挨拶を行い、これまでの学びへの感謝や今後の抱負を述べた。優秀な成績を収めた卒業生には学長賞、大学院生には大学院院長賞が授与され、これまでの努力が称えられた。さらに、来賓の方々から祝辞が贈られ、卒業生の前途を祝福するとともに、今後の活躍への期待が寄せられた。晴れやかな雰囲気の中、卒業生たちは新たな一歩を踏み出した。

（事務部 富崎知尋）

3月8日 講堂

※役職は当時。



●学長賞を受賞した作業療法学科の市川玲菜さん

小田原 キャンパス

小田原保健医療学部・大学院の学位記授与式が3月7日に執り行われた。この日、学位記を授与されたのは学部生205人（看護学科83人、理学療法学科81人、作業療法学科41人）大学院修了生13人（博士課程8人、修士課程5人）。

学部生総代として看護学科の佐野美咲さんに鈴木康裕学長から学位記が授与され、矢富裕大学院長からは博士課程総代の古館卓也さんに学位記が授与された。

各学科の学長賞発表の後、鈴木学長、矢富大学院長の式辞に続き、来賓の安藤圭太小田原副市長、神奈川県立足柄上病院長の川名一朗病院長より祝辞をいただいた。

（総務課 下村達典）

3月7日 本校舎体育館



●大川市長賞受賞の田崎彩和音さんと江藤義行大川市長

大川 キャンパス

大川キャンパスでは、3月5日、福岡保健医療学部および大学院の学位記授与式を執り行い、学部生203人、大学院生40人に学位記を授与した。式典では理学療法学科、作業療法学科の成績最優秀者に学長賞が、在学中のボランティア活動を通して地域へ貢献した作業療法学科の田崎彩和音さんに対して、大川市の江藤義行市長より大川市長賞が授与された。鈴木学長、高木理事長と式辞が続き、作業療法学科の赤司望愛さんが「本学で学んだ貴重な経験から、心身の健康を支えるための医療を提供することのできる作業療法士になりたい」と謝辞を述べた。

（学生係 石橋武彦）

3月5日 講堂

大学院生総代

医療福祉学研究所 博士課程
保健医療学専攻 理学療法学分野

松本 千晶



理学療法士を志した原点である「スポーツの発展に寄与したい」という思いを、臨床の現場だけでなく研究のフィールドにも広げ、選手支援につなげるため、この3年間、研究に取り組んでまいりました。

博士課程の3年間は、学ぶべきことが尽きない日々でした。データ分析、解析の方法、結果の解釈——自分の未熟さを痛感する時間でもありました。しかし、それこそが研究の醍醐味であり、学び続けることの意義なのだと、今、実感しています。

これまでご指導ご鞭撻を賜りました諸先生方、ご支援くださった職員の皆様、被験者としてご協力くださった学生・選手の皆様、そして家族に、心より御礼申し上げます。

大学院生総代

医学研究科 博士課程
医学専攻 臨床医学研究分野

小山田 匠吾



在学中、人工内耳の聴取成績に関する臨床研究を行いました。限られた時間の中で研究を進めることに苦勞し、試行錯誤を重ねる中で困難に直面することもありましたが、先生方のご指導や、事務職員・家族・友人の支えにより、無事に修了することができました。本学での学びを生かし、今後も医療人として、また研究者として研鑽を積み、医療や研究の成果を社会に還元できるよう努めてまいります。

大学院生総代・大学院院長賞

医療福祉学研究所 博士課程
保健医療学専攻 臨床検査学分野

横山 翼



このような栄誉ある賞を受賞でき大変嬉しく思います。ご指導ご鞭撻いただきました永沢善三教授、諸先生方、高木病院のスタッフの皆様により感謝申し上げます。修士から数え5年間永沢教授の元でお世話になりましたが、本当に多くのことを学ばせていただき、私にとって非常に貴重な経験となりました。これから本学で学んだことを礎として、臨床検査業界の発展に少しでも貢献できるよう励んでまいります。

大学院院長賞

医療福祉学研究所 修士課程
保健医療学専攻 生殖補助医療胚培養分野

中條 隼大



このたび、修士課程において院長賞を受賞することができ、大変光栄に存じます。本課程を通じて専門分野の知識を深め、臨床の現場で実践的に学ぶ貴重な機会を得ました。また、国内外の学会発表を通じ、多くの学びを得ることができました。

課題研究では、先生方の温かいご指導とご支援を賜り、今回の受賞につながったことに心より感謝申し上げます。今後も本課程で得た知識と経験を生かし、不妊に悩むご夫婦の力になれるよう、胚培養士として研鑽を積んでまいります。

大学院生総代

医学研究科 博士課程
医学専攻 臨床医学研究分野

平山 大貴



心臓外科医として、2020年6月に国際医療福祉大学成田病院に赴任しました。手術に従事する一方で心雑音外来の立ち上げにかかわることができました。聴診器は約200年前に誕生し現在も日常診療で使われています。ただ、聴診の手技は主観的であるため、私が聞こえている音は正しいのかと疑問に思うようになりました。このような疑問がリサーチマインドだと気付かされ私は国際医療福祉大学大学院へ入学しました。データ収集から解析方法にわたり多くのことを学びました。論文作成は心臓外科チームの先生方や他診療科の先生方のサポートあってのものです。本学で培った臨床力、研究力、人間力を生かしよりよい医療を提供できるように精進してまいります。

大学院生総代

医療福祉学研究所 博士課程
保健医療学専攻 福祉支援工学分野

古館 卓也



在学中は、寝たきりの方々の生活向上をめざし、ベッド上の姿勢と循環機能の関連について研究を行いました。一つの事象を説明することは想像以上に困難であり、地道な作業の積み重ねが必要であると痛感しました。この経験を通じて、「研究は一日にしてならず」という言葉の重みを実感しました。しかし、この複雑で地道な作業の先に、人々の生活の質を向上させる方法を提案できる可能性があるかと確信し、今後も医療・福祉の発展に貢献するため、学び続け、努力を惜しまない所存です。

ご指導いただいた窪田准教授をはじめ、多くの方々に心より感謝申し上げます。

大学院院長賞

医学研究科 修士課程
公衆衛生学専攻 国際医療学分野

グエン ティトゥオン ヴィー



ベトナムの小さな町で育った私にとって、海外留学はずっと夢でした。そして、IUHWはその夢を現実にしてくれました。日本での生活は、優れた教授陣のもとで学び、国際的な学生と共に寮で生活し、国内を旅行し、新しい人々と会う日々でした。さまざまな機関の先輩たちと交流する機会を得たことで、視野が広がり、キャリア形成にも大いに役立ちました。

特に思い出に残っているのは、「居酒屋ナイト」です。教授や友人たちと過ごした時間は、文化の多様性をより深く理解する貴重な機会となりました。新しい経験を積み重ねることで、私の大学生活は活気に満ち、刺激的で、意味のあるものとなり、私自身を大きく成長させました。講義や研究を通じて得た知識、そして人々とのつながりの経験を生かし、母国での新たなプロジェクトに貢献したいと考えています。学んだことを実践し、グローバルヘルスの発展に寄与し、世界に良い影響を与えることが私の目標です。

理事長賞、学長賞・卒業生総代

大田原キャンパス

学長賞・卒業生総代



保健医療学部
放射線・情報科学科
井田 裕葵

大学生活では、専門職としての知識や技能、医療従事者としての意識付けを学ぶことができました。また、ゼミや他学科との交流などではたくさんの実り豊かな出逢いがあり、多様な考え方や価値観に触れることで、一人の人間として大きく成長することができました。

国際医療福祉大学という恵まれた環境の中で切磋琢磨してきた私たちは、今後それぞれの進む専門分野において日々精進し、チーム医療で互いに支え合い、刺激を与えあえる社会人になれるよう努力してまいります。

学長賞



保健医療学部
作業療法学科
三上 紗英

学長賞



保健医療学部
言語聴覚学科
阿部 菜月

学長賞



保健医療学部
視機能療法学科
吉田 彩菜

学長賞



医療福祉学部
医療福祉・マネジメント学科
佐々木 彩乃

学長賞



薬学部
薬学科
狩野 颯斗



成田キャンパス

理事長賞



医学部 医学科
ファム クオック ホアン
(Pham Quoc Hoang)

大学生生活を振り返ると、試験の連続で大変な日々が続きました。苦しいことも多かったですが、努力を重ねて乗り越えることができました。英日カリキュラムのおかげで効率よく学ぶことができ、USMLE Step 1とStep 2 CKにも合格できました。また、この大学でたくさんの素晴らしい人たちに会いました。共に学び、支え合った友人、熱心に指導してくださった先生方、そして多くのことを教えてくださった患者様との出会いは、私にとってかけがえのないものです。患者様と直接お話ししながら診療に関わり、医師としての責任の重さとやりがいを強く感じました。最後に、高木理事長をはじめ、先生方、職員の皆様、友人、そして家族に心から感謝申し上げます。皆様の支えがあったからこそ、充実した大学生生活を送ることができました。

学長賞・卒業生総代



成田保健医療学部
作業療法学科
山本 遥暉

大学生生活の4年間は、学びと挑戦に満ちた時間でした。入学当初は、専門用語に戸惑い、授業についていくのに精一杯でした。病院での実習では机上の学びとの違いに苦戦しながらも、患者様と向き合うことへの難しさや、責任の重さを実感しました。特に国家試験は精神的にも体力的にも大きな試練でした。大きな不安や焦りに押しつぶされそうになることもありましたが、仲間と励まし合い、知識を共有しながら努力を続けたことで乗り越えることができました。振り返ると困難も多かった大学生活でしたが、それ以上に学びや成長を実感できる充実した時間でした。この4年間で培った知識や経験を生かし、これからも成長していきたいと思っています。

学長賞



医学部
医学科
石井 晴也

学長賞



成田看護学部
看護学科
重松 優希

学長賞



成田保健医療学部
理学療法学科
橋本 南

学長賞



成田保健医療学部
言語聴覚学科
窪谷 清音

学長賞



成田保健医療学部
放射線・情報科学科
加藤 有馬

学長賞



成田保健医療学部
医学検査学科
有坂 琉生

東京赤坂キャンパス

学長賞・卒業生総代



赤坂心理・医療福祉マネジメント学部
医療マネジメント学科
久保田 哲郎

本学での4年間の学びで、広汎な知識と多様な視座を得ることができ、医療をより良くしたいという入学時の想いをより一層強いものとすることができました。卒業後は医療ITを通じて医療従事者の方々を支えたいと考えております。変化の激しい医療業界において、その変化に身を委ねるのではなく、潮流を読み解き、自らが変革の波を創り出すことができる人材となれますよう、本学の卒業生としての誇りを胸に、日々邁進してまいります。

学長賞



赤坂心理・医療福祉マネジメント学部
心理学科
太田 麻里菜

4年間という時間の中で、講義やサークル活動、諸活動を通して、多くのことを学んできました。忘れてはいけないことは、この学びは私1人だとしたら得られないものであったということです。家族や友人、先生方や職員の皆様に支えていただいたことを噛み締めて、「有難い」と思い続けられる人でありたいです。卒業後は、本学大学院で心理職をめざして勉学に励みたいと思います。

大川キャンパス

小田原キャンパス

学長賞・卒業生総代



小田原保健医療学部
看護学科
佐野 美咲

新型コロナウイルスが蔓延するなか入学し、対面での授業や実習が制限されるなど、不安な日々を過ごしたあの日から早くも4年の月日が経ちました。数多くの授業や実習から専門的な知識・技術を身に付けることができました。また学生や先生方、実習先の指導者さんや患者さんなど数多くの人との出会いを通し、多様な考え方や価値観に触れることで、ひとりの人間として大きく成長することができました。4月からはチーム医療の一員そして社会人としての責任感を持ちながら社会に貢献できるよう邁進してまいります。

学長賞



小田原保健医療学部
理学療法学科
古畑 怜奈

学長賞



小田原保健医療学部
作業療法学科
市川 玲菜

学長賞・卒業生総代



福岡保健医療学部
理学療法学科
鬼丸 万実

私にとってこの4年間は、自分自身の弱さを肌で感じたと同時に多くの学びを得た時間でした。目標を見失うこともありましたが、卒業式でみんなの涙を見てやってきたことは間違いではなかったのだと思うことができました。このような素晴らしい日々を過ごせたのは多くの方々の支えがあったからです。先生方や友人との出会いが一番の財産となりました。本当にありがとうございました。4月からは入職させていただく病院で沢山の経験を積み、将来的には大学院で学んでみたいと考えているので、謙虚さと向上心を忘れず日々を過ごしていきます。



学長賞



福岡保健医療学部
作業療法学科
赤司 望愛

学長賞



福岡保健医療学部
言語聴覚学科
末次 風沙

学長賞



福岡保健医療学部
医学検査学科
野中 優子

新任のごあいさつ

Greetings



国際医療福祉大学 副学長／ 国際医療協力センター長／大学大学院 教授 山本 尚子

医師、医学博士、公衆衛生学修士。(旧)厚生省入省後、厚生労働省、防衛省、外務省及び自治体などで勤務。厚労省大臣官房総括審議官を経て2017年からWHO事務局長補。2022年12月より国際医療福祉大学教授。2025年4月より副学長(現職)。内閣府健康・医療戦略参与、厚生労働省国際参与。

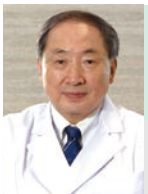
このたび、国際担当副学長を拝命いたしました。これまで公衆衛生専門職大学院などで国際保健を担当しておりました。医療福祉分野において、国際社会が直面する共通課題は多様化し、かつその変化のスピードが速くなっている現在、本学の基本理念の一つである、グローバルな視点を持ち、日本のみならずアジア、そして世界の人々のために、共に保健医療福祉の推進に貢献できる人材を育てる大学の実現をめざし、微力ながら取り組んでまいります。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。



国際医療福祉大学 副大学院長(九州地区) 入江 裕之

九州大学医学部卒、医学博士。高邦会画像診断センター長、九州地区 医療安全管理センター長、福岡国際医療福祉大学医療学部 診療放射線学科教授。佐賀大学名誉教授。前佐賀大学医学部放射線医学講座教授。元米国アイオワ大学放射線科客員講師。専門は体幹部領域のCT・MRI診断。

4月1日付けで九州地区担当の副大学院長を拝命いたしました。私は昨年4月に高邦会画像診断センター長として当グループに赴任しましたが、それ以前は佐賀大学、九州大学、米国アイオワ大学で放射線科医として、教育・研究・臨床に従事してきました。さて、九州地区の大学院は社会人学生が多いことから、多くのe-LearningコンテンツやTeamsを用いた討論などを活用して働きながらでも学修しやすい環境を整えています。関東地区の大学院とも密に連携して、九州地区の大学院をより活性化していくために微力ながら尽力いたしますので、ご支援をよろしくお願いいたします。



国際医療福祉大学成田地区統括病院長／ 医療法人社団高邦会(千葉)理事長 宮崎 勝

千葉大学卒、医学博士。千葉大学名誉教授。前国際医療福祉大学成田病院病院長、元国際医療福祉大学三田病院病院長、元千葉大学医学部附属病院長、前千葉大学大学院臓器制御外科学教授、元千葉大学副学長、日本外科学会元理事・監事、日本外科学会第112回会頭、日本肝胆膵外科学会前理事長・名誉理事長、日本胆道学会元理事・第49回会長、国立大学附属病院長会議常置委員会前委員長。米国外科学会名誉会員、ヨーロッパ外科学会名誉会員、International Surgical Group(ISG)日本代表メンバー。

本年度より国際医療福祉大学成田病院、成田老年医療福祉センターおよび医療法人社団高邦会(千葉)成田リハビリテーション病院の成田地区三病院の統括病院長として勤務しています。成田病院は開院6年目を迎えており、老年福祉医療センターは2025年4月に開院したばかりであり、さらに成田リハビリテーション病院は2018年開院ですが本年度より新たな医療法人社団高邦会(千葉)へ継承移管された病院です。この3施設は高度急性期病院、回復期リハビリテーション病院、さらには老年保健病院及び特別養護機能と各々異なる医療機能が一体となって成田地区において地域の医療機能をより高めていけるよう連携を強化していきたいと願っています。



国際医療福祉大学熱海病院 病院長／ 国際医療福祉大学 消化器内科統括教授 中島 淳

大阪大学卒、医学博士。前横浜市立大学肝胆器消化器病学教室主任教授・同大学学術院医学群長・同大学医学部長。日本消化器病学会認定指導医・消化器病専門医、日本肝臓学会認定指導医・肝臓専門医、日本消化器内視鏡学会認定指導医・消化器内視鏡専門医、日本内科学会認定総合内科専門医、緩和ケア研修修了。

このたび、国際医療福祉大学熱海病院病院長を拝命いたしました。当院は通常の診療のほか、救急医療、予防医学でも伊豆医療圏を中心とした静岡県東部・神奈川県西部の健康をサポートしています。この地域のがん、心臓病、脳卒中死亡率は静岡県内でも上位に位置しています。今後はこれまでの医療の提供に加えて、病気予防、健康増進への啓発活動にも積極的に関わり、地域の健康寿命延長に貢献したいと考えております。また、高齢者医療の日本の先駆けとなるべく、高齢者にやさしく、安心できる医療をご提供できるよう、職員一丸となって日々の診療を行ってまいります。ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



社会保障政策研究所 所長 矢野 康治

62年山口県生。下関西高、一橋大学(経)卒。85年大蔵省入省。証券局や主税局で課長補佐を務め、人事担当企画官、主計局企画官(うち1年は厚生労働係)、社会保障改革担当室参事官や官房長官秘書官等を経て、官房長、主税局長、主計局長、事務次官。現在は日本生命顧問や神奈川大学特別招聘教授ほか。

今日日本では命を守る医療や介護が危機に瀕しています。世界で最も厳しい少子高齢化が進むなか、患者や要介護者が増え続け、税や保険料の担い手が減り続け、「中福祉一低負担」の乖離が拡大するばかりです。何とかして社会保険給付を節減合理化するとともに、社会の会費集めをする必要があります。いずれも無理なことは出来ませんが、嫌だと言っているだけでは破滅します。これは財政問題とのゼロサムではなく、同根の課題であり、少子高齢化大国の宿痼・宿題です。活路を見出していかなければなりません。微力ながら尽力します。



国際医療福祉大学市川病院 病院長 須田 康文

慶應義塾大学卒、医学博士。英国リーズ大学大学院修士課程修了、慶應義塾大学医学部特任教授、前国際医療福祉大学塩谷病院病院長、元国際医療福祉大学三田病院整形外科部長、元慶應義塾大学医学部専任講師、日本整形外科学会専門医、日本体育協会公認スポーツドクター、日本足の外科学会認定医。

大谷俊郎先生の後任として国際医療福祉大学市川病院病院長に就任しました。市川病院は、急性期病床に加え、回復期リハビリテーション病床、療養病床、結核病床、訪問・通所リハ部門を有しており、さまざまな医療ニーズに対して、1つの医療施設で完結できる特徴を有しています。前任地である塩谷病院の病床構成と類似している点が多く、塩谷病院で培った地域医療の担い手としての役割を近隣にお住まいの方々へご提供するとともに、グループ内実習生にさまざまな医療のステージを経験してもらえよう、職員一丸となって頑張っている所存です。



国際医療福祉大学 副学長／ 医療福祉学部 学部長(兼任) 新井田 孝裕

北里大学卒、同大学院医学研究科修了、医学博士。米バージニア州立医科大学留学。北里大学医療衛生学部視覚機能療法学専攻助教授、NHK放送技術研究所客員研究員、日本弱視斜視学会理事を歴任。全国視能訓練士学校協会会長、日本神経眼科学会評議員、第78回日本弱視斜視学会総会会長、厚労省視能訓練士国家試験委員長。

本年度より、医療福祉学部長を拝命いたしました。医療福祉学部は「医療福祉コース」と「経営情報コース」に分かれていますが、さまざまな資格を取得して色々な進路をめざせる、多様性に富んだ未来が約束されています。新学科長に就任された伊奈川秀和先生、副学科長に昇格された山口佳子先生、江田哲也先生と力を合わせて、コース・ゼミ間の教員の連携に加えて学生・卒業生との交流を深め、活気に満ち溢れた魅力的な学部をめざしていきたいと考えております。今後とも皆様のお力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。



保健医療学部 学部長 谷口 敬道

東京理科大学卒。日本大学大学院理工学研究科医療・福祉工学専攻修了。博士(工学)。日本で最初に設立されたリハ専門職養成校の国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院で作業療法士免許取得。専門は重症心身障害、発達障害、学校作業療法。大田原、成田キャンパスの作業療法学科長を歴任。

私は1993年、本学開学前の大学設立準備室に入職し、1995年の開学以来30年間、学生教育に携わってきました。送り出した作業療法士は2,600名を超えます。設立当時、リハ専門職は3年制専門学校でしか養成されておらず、高木理事長がコメディカルの地位向上を掲げて、日本で初めての4年制大学を設立するというお話は、当時、夢のような出来事でした。各界の第一人者が教授陣として集まり、私は最年少としてその刺激的な環境で学びました。皆、新大学での教育に夢と希望を抱いていました。今年30周年を迎えます。開学時の息吹を改めて伝えていくように微力ながら尽力したいと思います。



成田看護学部 学部長／看護学科長(兼任) 岡田 佳詠

藤田保健衛生大学卒、筑波大学大学院、聖路加国際大学大学院看護学研究科修了。博士(看護学)。2017年本学部着任。2020年学科長。2025年学部長・学科長。専門は精神看護学・認知行動療法。日本精神保健看護学会理事。日本認知療法・認知行動療法学会理事。日本うつ病学会評議員。

2025年4月より成田看護学部長・学科長を兼務しています。成田看護学部では「共に生きる」の理念のもと、グローバルな視点を持ち、多職種と協働できる看護師を育てています。看護師の活躍の場が多様化するなか、広い視野からの判断力と行動力、コミュニケーション力、高い倫理観、自己研鑽力を学生が身につけ、夢や希望を実現できるよう教員が一丸となり支援します。そのための教育(大学)・実践(病院)・研究(大学院)の好循環も形成します。教員の研究活動推進と共に職務満足度も高め、選ばれる学部となることをめざします



赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 学部長／心理学科長(兼任) 橋本 和明

名古屋大学教育学部卒。武庫川女子大学大学院修士(臨床教育学)。家庭裁判所調査官として23年間勤務。花園大学を経て、2022年に本学に着任。同年から心理学科長、専攻主任、赤坂心理相談室長。日本子ども虐待防止学会理事、日本犯罪心理学会常任理事、こども家庭庁審議会児童虐待防止対策部会委員。

このたび赤坂心理・医療福祉マネジメント学部の学部長を仰せつかりました。まだ本学に来て年数も浅く、わからないことばかりなので、このような大役が務まるのかと不安でいっぱいです。ただ考えてみると、東京赤坂キャンパスも7年目で、人間で言えば小学校に上がったばかりの段階です。そんなことから、皆様のお力を借りながら、私自身もこのキャンパスとともに一緒に成長できればと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



福岡保健医療学部 副学部長 安達 康子

久留米大学病院看護専門学校卒、国際医療福祉大学大学院保健医療学修了(修士<看護学>)、久留米大学病院副院長兼看護部長、柳川リハビリテーション病院看護部長、高木病院看護部長を経て、現在、高木病院副院長兼高邦会グループ総看護部長を併任。

本年度より福岡保健医療学部(大川キャンパス)の副学部長を拝命しました。大川キャンパスの看護学科は今年度3年目を迎えます。私の役割として、まずは、すぐそばにある高木病院及び近隣のグループ病院・施設の看護管理者と大川キャンパスの看護教員との連携を高めることだと考えています。学生が楽しく実習できる環境を確保し、病院スタッフも今後の担い手として学生を暖かく見守り・指導していくことで、2年後のグループ病院への就職率を高めていくことが必須だと考えています。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



学務部長／研究支援センター長／大学院教授 緒方 一博

横浜市立大学医学部卒、同大学院医学研究科修了、医学博士。横浜市立大学名誉教授。理化学研究所研究員、KAST緒方「タンパク機能制御プロジェクト」研究室長、横浜市立大学医学部生化学教室主任教授、同大学図書館長・国公立大学図書館協力委員会委員長、医学部基礎医学統合部門長、医学倫理・研究配属部門長、試験管理・国試対策部門長、大学院医学研究科長などを歴任。日本生化学会奨励賞受賞、同評議員。

私はタンパク質や核酸の高次複合体のNMR、X線回折、分子モデリングなどを用いた分子構造解析と生化学的手法を組み合わせて、がんや神経難病の発症機構の解明や転写因子を標的とする創薬の研究を進めてまいりました。本学では、前職での大学運営経験も生かして、教育・研究のさらなる発展をめざし、教員の研究エフォートの確保、学部・横断的な研究チームの構築、教員の学位取得率の向上、研究支援人材の育成などで貢献できればと考えておりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

新任のごあいさつ

Greetings



保健医療学部理学療法学科 学科長
糸数 昌史

国際医療福祉大学保健学部理学療法学科卒（2期生）。卒業後、国際医療福祉リハビリテーションセンターに勤務し、主にこどもを対象とした理学療法に携わる。2011年に本学着任後、大田原・成田キャンパス等で理学療法教育に携わる。

このたび、保健医療学部理学療法学科の学科長を拝命いたしました。歴代学科長が築いてこられた伝統と実績をしっかりと受け継ぎつつ、革新と挑戦を重ね、次代に求められる学科づくりに努めてまいります。30周年という節目を迎えた今、新たな時代に即した教育を推進するとともに、地域社会や医療現場との連携を一層深め、人間力・臨床力・研究力を兼ね備えた理学療法士の育成に尽力してまいります。



保健医療学部医学検査学科 学科長
藤巻 慎一

東北大学大学院情報科学研究科後期課程修了。医学博士、情報科学博士。東北大学病院検査部主任、天理医科大学医療学部准教授、東北大学病院診療技術部部長兼臨床検査技師長。日本検査血液学会理事、日本医療検査科学会理事、前宮城県臨床検査技師会会長。

開学30周年の本年に新設された保健医療学部医学検査学科の学科長を拝命しました。大田原キャンパスとしては20年ぶり9学科目となります。これまで栃木県・東北地区の4年制私立大学で臨床検査技師を養成する唯一の学科であり、地域に貢献できる臨床検査のエキスパートの輩出という点で多くの医療機関から期待が寄せられています。また、栃木地区関連施設における臨床検査部門の学術研究的な連携も積極的に行う予定です。ぜひ、皆様のご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。



福岡保健医療学部理学療法学科 学科長
河野 健一

国際医療福祉大学大田原キャンパス第8期卒。リハビリテーション科学博士。2016年に成田保健医療学部に着任し、2020年より本学から厚生労働省医政局医事課へ出向。現在、リハビリテーション教育評価機構事務局長、日本糖尿病理学療法学会副理事長を務める。

国際医療福祉大学・高邦会グループ発祥の地である大川にて理学療法学科長を拝命いたしました。大川・柳川地区には、高木病院、柳川リハビリテーション病院、柳川療育センターをはじめとする数多くの関連病院があり、学生の学びにおいてこの上ない環境が整っております。この恵まれた環境を最大限に生かし、学部教育・研究・学生募集のさらなる発展に繋げるためのスキームを構築し、大川から国際医療福祉大学の一層の発展に貢献できるよう丁寧に取り組んでまいります。



**国際医療福祉大学
成田老年医療福祉センターセンター長／
同 介護老人保健施設オルタンシア 施設長**
小島 太郎

東京大学医学部卒、医学博士。専門は老年医学、老年薬学。前東京大学大学院医学系研究科講師、元宮内庁侍従職付医。日本老年医学会老年科専門医・指導医・評議員、日本認知症学会認定認知症専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本老年薬学会評議員、など。

このたび2025年4月に新設された成田老年医療福祉センターのセンター長を拝命いたしました。当センターは、日本の玄関口、成田の地に開設された介護老人保健施設および特別養護老人ホームを複合した介護施設です。老年医学に基づいた入所者の身体的・精神的な機能を細かい評価と各々に適した治療やケアを実践すると同時に、国際医療福祉大学成田病院や成田リハビリテーション病院的密接な連携のもと、医療や介護の提供を継続してまいります。



医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科 学科長
伊奈川 秀和

東京外国語大学卒、九州大学博士（法学）。厚生労働省等において社会・援護局保護課長、年金局総務課長、参事官（社会保障）、少子化・青少年対策審議官、中国四国厚生局長、全国健康保険協会理事等を歴任。東洋大学社会学部教授等を経て着任。

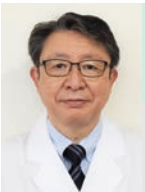
採用と同時に、学科長を拝命しております。学科の名前にマネジメントとついており、授業では「福祉サービスの組織と経営」を担当しているものの、理論と実践では勝手が違うのも事実であります。教える以上は、「やってみせ」ということで精いっぱい努力する所存です。特に本学科の場合、名前に中ばつがついていますが、切っても切れない関係の時に使うのが法律の用例です。医療福祉と経営の両方をつなぎ、シナジー効果を高めていきたいと思います。



成田保健医療学部作業療法学科 学科長
五味 幸寛

国際医療福祉大学卒。東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻博士課程修了。博士（障害科学）。国際医療福祉大学病院にて臨床に従事し、成田キャンパス開設時に本学科着任。一般社団法人千葉県作業療法士会副会長。

私は大田原キャンパスで作業療法を学び、国際医療福祉大学病院で働くことを学び、大田原・成田キャンパスで教育することを学びました。これまでとても恵まれた環境で学ぶことができています。これから、学生達に学ぶ楽しみや、仲間と協力することの充実感を得ていただくための最適な環境を作ってまいります。学科やキャンパスの間に垣根はないと思いますので、積極的に交流し、新たな環境を創造して質の高い教育を行ってまいります。



成田リハビリテーション病院 病院長
大谷 俊郎

慶應義塾大学卒、医学博士、慶應義塾大学名誉教授、前国際医療福祉大学市川病院病院長、元慶應義塾大学整形外科教授、看護医療学部・医学部スポーツ医学総合センター教授、大学院健康マネジメント研究科教授、日本整形外科学会認定専門医。

2025年4月から医療法人社団高邦会（千葉）成田リハビリテーション病院の病院長に就任いたしました。当院は回復期リハビリテーションを行うための専門病院で、国際医療福祉大学成田病院、同成田老年医療福祉センターと連携して、患者様のニーズに合った医療をスムーズに提供することをめざしております。限研皆様設計の森の病院というコンセプトのもと、明るくゆったりとした療養環境の中で、共に生きる社会の実現をめざして患者様中心のリハビリテーションを展開いたします。



サポートハウス那須 施設長
加藤 勝二

順天堂大学卒。大田原市立野崎中学校長、若草中学校長を経て入職。前那須地区学校体育連盟会長。元栃木県中学校体育連盟副会長。

このたび、サポートハウス那須施設長を拝命いたしました。当施設は、身体に障害を持つ方の生活介護の提供と健康管理を行うとともに、機能訓練や余暇活動を通じて、ご利用者の自立と社会参加の促進を目的としたサービスを提供しています。ご本人はもちろん、ご家族の穏やかで幸せな生活のための支援をめざしたいと思います。また、安定した施設運営に向けて、職員の健康の保持とモチベーションの維持を意識しながら、明るく優しい職場づくりを心がけてまいります。



成田保健医療学部言語聴覚学科 学科長
菅野 倫子

東北大学卒。国立身体障害者リハセンター学院卒。第1回言語聴覚士国家試験にて言語聴覚士取得。国際医療福祉大学言語聴覚学科、三田病院を経て、2017年から成田保健医療学部言語聴覚学科。博士（保健医療学）。2022年より日本言語聴覚士協会副会長。

このたび、成田保健医療学部言語聴覚学科の学科長を拝命いたしました。言語聴覚士は、全世代の「ことば」によるコミュニケーションと摂食嚥下（食べること・飲み込むこと）、認知コミュニケーション障害の問題を支援する専門職です。本学科の言語聴覚士育成の理念と伝統を受け継ぐとともに、激変する社会構造の変化に即応し、言語聴覚障害を持つ方を確かな実力で支援できる言語聴覚士の育成のため、教育・研究・臨床の充実に努めてまいります。



成田保健医療学部放射線・情報科学科 学科長
谷本 克之

千葉大学医学部附属診療放射線技師学校卒、同大学院医学薬学府修了。医学博士。放射線医学総合研究所病院診療放射線室長（現QST病院）を経て現職。日本の診療放射線技師として初めて米国核医学会で最優秀賞受賞。IAEA/RCA、JICA講師等。

このたび、放射線・情報科学科 学科長を拝命いたしました。身の引き締まる思いとともに、その責任の重さを実感しております。本学科では、患者様に寄り添う温かい心と高度な専門性を備え、国際的に活躍できるような診療放射線技師の育成をめざしています。急速に発展・高度化する医療技術の進歩に対応すべく、教育と研究のさらなる充実に努めてまいります。今後とも変わらぬ温かいご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



那須こどもの家 施設長
益子 雅明

武蔵大学卒。栃木県公立小中学校教員として36年間勤務。2001年から2004年まで指導主事、管理主事として教育委員会に勤務。2020年3月大田原市立大田原中学校長を最後に退職後、2020年4月から2024年3月までおたわら風花苑施設長。2024年4月から2025年3月までサポートハウス那須施設長。2025年4月より現職。

このたび、児童心理治療施設「那須こどもの家」の施設長を拝命いたしました。邦友会に入職して以来、幅広く福祉の世界を経験させていただいております。当施設内には地元公立小中学校の「分校」が併設され、平日、児童生徒は分校の教室で学習し、放課後と土・日・祝は、職員とともに施設内で生活をしています。これまで教育現場で体得してきた知識や技能を十分に生かし、当施設の児童生徒の育成のために、職員と一丸となって尽力していくことが使命と思っています。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



**国際医療福祉大学クリニック院長／
健康管理センター長**
岡 孝和

九州大学医学部大学院卒。前国際医療福祉大学病院心療内科部長。国際医療福祉大学医学部心療内科学教授。

このたび、国際医療福祉大学クリニック院長として着任いたしました。学生、教職員の健康管理のみならず、地域の方々の健康増進とプライマリーケアの拠点として機能するよう努力いたします。また最新の設備と専門のスタッフ、関連医療施設との連携で高度な医療サービスをご提供いたします。よろしくお願いいたします。

成田地区本学グループ3施設の連携

「国際医療福祉大学成田老年医療福祉センター」「成田リハビリテーション病院」の誕生

2025年4月、成田地区に新たに2つの本学グループ施設が誕生した。1つは、介護老人保健施設と特別養護老人ホームの複合型施設「国際医療福祉大学成田老年医療福祉センター」、もう1つは医療法人社団心和会より承継した通称“森の病院”「成田リハビリテーション病院」だ。この2施設と「国際医療福祉大学成田病

院」を合わせた成田市内の本学グループ3施設が互いに連携することで、急性期から回復期、介護・在宅復帰支援までを一貫して提供できる体制が整った。これからも地域の方々が安心して暮らせるよう、よりきめ細やかな医療・サービスを提供し、グループ全体で地域包括ケアを行っていく。

成田地区のグループ施設

■国際医療福祉大学成田老年医療福祉センター（高齢者介護・福祉）

老年医学を専門とする医師や医療スタッフの指導のもと、利用者の身体的・精神的な機能を細かく評価し、一人ひとりに適した治療やケアを計画・実践する介護老人保健施設と特別養護老人ホームの複合型施設。総ベッド数は介護老人保健施設100床、特別養護老人ホーム（多床室型・ユニット型）100床、ショートステイ用10床の計210床。感染症対策として介護老人保健施設内には個室（6部屋）を設け、二重扉や簡易陰圧できる換気扇を導入した個室6部屋を設置。廊下は感染エリアとクリーンエリアを区分できる構造で、安心して利用できる環境を実現した。

■成田リハビリテーション病院（回復期リハビリテーション）

病気やケガなどで心身機能が障害された方々への集中的なリハビリテーションにより、日常生活動作能力を回復させることをめざす回復期リハビリテーション専門病院。充実した設備で、専門性の高いスタッフによる効果的なリハビリテーションを受けることができる。2017年に病床数100床で開設され、「森の病院」として地域医療に貢献してきた。建築家の隈研吾氏が設計した建物は、周囲の緑と調和し、リハビリテーションに専念できる落ち着いた環境を提供している。また、本学の卒業生を含む多数の医療スタッフが、患者様一人ひとりに寄り添ったリハビリテーションをチーム医療で行う。

■国際医療福祉大学成田病院（急性期医療）

あらゆる疾患に対応できる診療科・センターなど充実した診療機能を備える本学附属病院。高度な知識・技術と豊富な経験を有する医師やメディカルスタッフが、診療部門の垣根を超えて相互に協力し、きめ細やかなチーム医療を届ける。隣接する国際医療福祉



●成田地区のグループ施設の位置関係

2024年度 博士課程修了者・論文博士合格者一覧

- 【看護学分野】
- ・村山 久美子 集中治療室に勤務する看護師の看護実践の困難感、職場環境、個人特性がバーンアウトへ及ぼす影響—男女の因果モデルの差異—
 - ・福永 寛恵 成人看護学実習における患者への個別ケア認知モデルの構築
 - ・大堀 美樹 児童発達支援事業所で働く看護師のワーク・エンゲイジメントへの影響要因
 - ・原田 通予 病院に勤務する助産師のストレス反応尺度開発
 - ・熊田 奈津紀 乳がんサバイバーのアドバンス・ケア・プランニング態度尺度の開発と信頼性・妥当性の検証
 - ・石田 都乃 産後の生活を見据えた保健指導プログラムの検討
 - ・瀬戸山 美和 看護専門中学校中堅看護教員の成長モデルの特徴—看護教員の成長における体験と認識に基づいて—
 - ・藤川(松野) 真紀 臨床実習における看護大学生の主体性を促進する要因及び主体性の実態
 - ・加藤 千明 小学校高学年における減塩教育の効果の検討
- 【助産学分野】
- ・大野 みな子 情報化社会で妊婦の主体的行動を促進するための助産師の保健指導における基本姿勢
- 【理学療法学分野】
- ・秋元 恵理 パーキンソン病患者の歩行に関する角速度を用いた肢節間協調性の解析
 - ・岡道 綾 乳がん手術後12ヵ月以内に発生する上肢リンパ浮腫に対する上肢機能および体組成の予測指標
 - ・松本 千晶 アマチュアサッカー選手における年齢別の身体組成と筋肉量の比較
 - ・小笠原 悠人 運動不器用な神経発達症児におけるTrail Walking Testを使用した二重課題遂行能力と関連する身体機能・身体組成の検討
 - ・小菅 勲太 在宅慢性期脳卒中患者を対象としたタブレットを用いた映像観察において麻痺側上肢機能を改善させる効果的な再生速度の検討
 - ・大浦 洋一 ～ランダム化比較試験～
 - ・鈴木 誠也 地域在住高齢者の生きがい感が心理社会的側面と運動機能に及ぼす影響
 - ・尹 瑛 学生と理学療法士が歩行練習中に用いる教示とフィードバックの違い
 - ・松尾 奈々 サルコペニア要介護高齢者における5回立ち上がりテストの最小可検変化量
 - ・松尾 奈々 COVID-19パンデミックにおける日本の地域在住高齢者のフレイル有症率とその変化に関連する因子：2020年から2022年までの前向きコホート研究
 - ・小野瀬 剛広 慢性疼痛患者に対する呼吸法を用いた聴覚ニューロフィードバックトレーニングの効果
- 【作業療法学分野】
- ・芹澤 一馬 COVID-19による活動制限下における長期入院統合失調症者の睡眠と社会生活機能の変化
 - ・小野瀬 剛広 高次脳機能障害者の行動に対処する家族における自己効力感評価尺度の開発—妥当性、信頼性の検討—
- 【福祉支援工学分野】
- ・古館 卓也 セミファラー一位における上部体幹の屈曲と下肢挙上が循環動態に及ぼす影響
 - ・石川 雅行 回復期脳卒中片麻痺患者における歩行中の体幹の動きに着目した片側Nordic PoleとT-caneの歩行分析
 - ・小松 佳路 膝前十字靭帯再建術者における柔らかい着地の有用性—着地の硬さに及ぼす拮抗筋の共収縮と膝関節固有受容感覚の影響—
 - ・渡邊 司 脳卒中後遺症者の更生用下肢装具製作時における要否判定の課題に関する研究—混合研究法を用いて—
 - ・山崎 達彦 関節リウマチ患者の身体イメージ及び運動イメージと精神心理に因果関係はあるか—構造方程式モデリングによる検討—
- 【言語聴覚分野】
- ・奥泉 大地 自閉スペクトラム症児の発話プロソディの音響学的特性：対話相手の存在からの検討
- 【医療福祉教育・管理分野】
- ・四宮 宏宏 理学療法士の感情的疲労感の信頼性・妥当性の検証
 - ・野中 嘉代子 理学療法士の職業的アイデンティティ尺度開発における探索的因子分析
 - ・松井 剛 「理学療法士・作業療法士のエンプロイアビリティ尺度」の信頼性と妥当性の検証
 - ・村上 貴史 回復期リハビリテーション病棟に従事するリハビリテーション専門職における多職種連携、社会的スキル、レジリエンスおよび心理的安全性の関係
 - ・松川 訓久 理学療法養成校学生の予期的社会化指標の信頼性と妥当性の検討
 - ・濱本 尊博 アルツハイマー型認知症高齢者の「食事行為の自立を促す支援プロセス」の検討—作業療法士の食事支援による行為分析から—
 - ・原 真子 理学療法士の共感的行動の特徴—ミクストメソッドによる検討—
 - ・坂本 竜司 理学療法学生のための Computational Thinking 尺度の信頼性と妥当性の検証
- 【臨床検査学分野】
- ・横山 翼 北九州地域で蔓延しているステルス型VREの質量分析計による検出アルゴリズムの構築
 - ・ISLAM MD JAHIRUL PCR-RFLP法による除菌療法が胃内ヘリコバクターピロリ菌叢におよぼす多様性の解析
- 【医療福祉経営学分野】
- ・嶋本 純也 第4期特定健診・特定保健指導における目標設定と改善提言：政策決定過程の分析
 - ・丁 宁 医療現場における機械音声翻訳機の活用研修プログラムの開発に関する研究
 - ・藪下 千恵美 診療所医師の地域・診療科格差の実態と課題に関する研究
- 【診療情報管理・分析学分野】
- ・堀川 知香 医療の質を表す指標と病院経営の機能的評価項目との関係性についての研究
 - ・宮崎 智代 要介護者と同居する支援が必要と想定される子に対する介護支援専門員による関与についての研究
- 【医療福祉学分野】
- ・神谷 典成 訪問介護員の思訪問介護員の思考をもとにした介護過程に関する研究

- ・越雲 美奈子 小児がん経験者の活躍モデルの構築
- ・山口 佳子 相談支援専門員の知的障害者への計画相談支援における意思決定支援に関する研究—ソーシャルワーク実践との関連に着目して—
- ・末田 千恵 在宅看取りを促進する在宅療養体制の基盤整備と機能強化に関する研究—神奈川県横浜須賀市を分析対象として—
- 【医療・生命薬学専攻(分野なし)】
- ・長瀬 友樹 免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象発現要因の解析評価
- ・吉田 雄貴 SGLT2 阻害薬が2 型糖尿病患者の造血能にもたらす影響
- ・駒坂 太嘉雄 難溶性医薬品の経口製剤開発評価におけるナノ懸濁化と吸収シミュレーションの活用に関する研究
- 【基礎医学研究分野】
- ・指田 涼平 Effects of dual antiplatelet therapy (DAPT) compared to single antiplatelet therapy (SAPT) in patients with traumatic brain injury (邦題：外傷性脳損傷患者におけるDAPT(dual antiplatelet therapy)とSAPT(single antiplatelet therapy)の影響の比較)
- ・藤原 康 Cathepsin D Inhibits Angiogenesis in Pituitary Neuroendocrine Tumors (邦題：下垂体腺腫におけるVasoinhibin発現と血管新生、腫瘍増殖能についての研究)
- 【社会医学研究分野】
- ・坂田 清美 Emotions induced in primiparas in 1-2 months after delivery by narrating their childbirth experiences (邦題：産褥1～2か月の初産婦が自身の出産体験を語るにより引き起こされた感情)
- ・大高 俊一 Factors Associated with an Increase in On-Site Time of Pediatric Trauma Patients in a Prehospital Setting: A Nationwide Observational Study in Japan (邦題：小児外傷患者の現場滞在時間の延長に関連する要因：日本の全国規模の観察研究)
- ・GANBAT DARIIMAA Effect of environmental tobacco smoke on formation of oral pigmentation: systematic review and meta-analysis (邦題：環境タバコ煙が口腔色素沈着の形成に与える影響：システマティックレビューとメタアナリシス)
- ・山崎 裕子 Sulfonylurea prescription patterns in elderly patients with type 2 diabetes mellitus: A comprehensive analysis of real-world data from pharmacies in Japan (邦題：Real-world Dataを用いた高齢者におけるスルホニル尿素処方実態の包括的調査)
- ・添石 喬裕 Predicting Depressive Symptoms and Psychological Distress by Circulating Inflammatory Mediators A 16-Month Prospective Study in Japanese White-Collar Employees (邦題：炎症性バイオマーカーによる抑うつ症状および精神障害の予測：日本人勤労者における16か月前向き研究)
- 【臨床医学研究分野】
- ・玉井 三希子 Variabilities and contentions in anesthesiologists' perspectives on Japanese perianesthesia nurses: A qualitative study (邦題：周麻酔期看護師に対する日本の麻酔科医の見解の多様性：質的研究)
- ・南 美和子 Characterized factors of subjects who were first time diagnosed as hyperglycemia more than 126 mg/dL during annual or biannual medical checkups: a case-control study in Japan (邦題：毎年または2年ごとの健康診断で初めて126mg/dLを超える高血糖と診断された受診者の特徴：日本における症例対照研究)
- ・吉川 和彦 Lower body bone fractures have high mortality rates and poor prognosis in the patients with hemodialysis (邦題：下半身骨折は維持血液透析患者の死亡率を上昇させ予後を悪化させた)
- ・小山田 匠吾 Addressing Current Issues in Cochlear Implantation: Data Analysis of Inclusion Criteria for Prelingually Deafened Adults and Adults with Unilateral Deafness (邦題：人工内耳の課題への対応：言語習得前難聴成人例および一側性難聴成人例の適応基準に関するデータ解析)
- ・門岡 慶介 Association Between Cerebral Angiography and Asymmetrical Cortical and Deep/Medullary Vein Signs on T2 Star Magnetic Resonance Imaging in Patients with Hyperacute Horizontal Segment of the Middle Cerebral Artery Occlusion (邦題：超急性期中大脳動脈水平部閉塞症例における非対称性静脈拡張と脳血管撮影所見の関係に関する考察)
- ・川浦 太 Clinical Significance of Stool Screening for Carbapenem-resistant Enterobacteriaceae in Hospitalized Aged Patients Transferred from other Hospitals in Japan (邦題：高木病院への転院患者を対象としたカルバペネム耐性腸内細菌スクリーニングの意義：高齢者における後ろ向きカルテ調査)
- ・高木 邦康 Female patients with end-stage renal failure treated by hemodialysis had a low mortality rate and small patient number compared to male patients: 5-year follow-up study in Japan (邦題：透析治療中の腎不全女性患者は男性患者に比較して死亡率が低く患者数が少ない：日本における5年間の経過観察研究)
- ・平山 大貴 Impact of trans-aortic flow velocity on the development of systolic heart murmur. (邦題：大動脈弁通過血流速度が収縮期心雑音の発生に与える影響)
- ・木村 貴英 A Multi-Center Randomized Controlled Trial Evaluating the Potential Effects of Exercise in Patients With Immunoglobulin A Nephropathy and Other Renal Disorders With the Minimization Method (邦題：IgA 腎症を含めた腎臓病に対する運動療法の有効性評価のための多施設無作為化比較試験)
- ・LIANG LIJUAN Hypoxia Modulates Sodium Chloride Co-transporter via the CaMKII-β Pathway: An In Vitro Study with mDCT15 Cells (邦題：低酸素はCaMKII-β経路を介してナトリウム・クロライド共輸送体を調節する： mDCT15細胞を用いたin vitro研究)

10か国・地域の14の研修先で331人が参加

真の国際人養成をめざす本学の基本理念実現のため他大学では類を見ない規模で行われる海外研修講座「海外保健福祉事情」は2024年度冬季に10か国・地域で14のグループに分かれ、2月17日から3月9日にかけて行われた。本学の5つのキャンパスから300人、姉妹校の福岡国際医療福祉大学から31人の計331人が参加。学生たちはそれぞれの国の医療・福祉事情を学んだ。



●マレーシアマネジメント&サイエンス大学でのトモダチアワーにて

オーストラリア TAFEゴールドコースト

相手を尊重する大切さ実感

総勢39人で10日間の充実した時間を過ごすことができた。当初自己紹介にも困っていた学生だったが、最終日、日本文化などを紹介する「トモダチアワー」では他国からの留学生、ホストファミリー、学校の職員の方々と楽しいひと時を過ごすことができた。

参加した成田看護学部の実成和花さんは「授業では、オーストラリアの医療制度などを学び、病院見学ではオーストラリアにおける看護師の役割を再認識できた。ホームステイでは人のやさしさに触れ、相手を尊重することの大切さを実感した。貴重な経験だった」と話している。

成田看護学部看護学科 大谷則子教授



●おりがみを通じて交流

オーストラリア TAFEケアンズ

国を挙げての対策に感心

研修団が夜通しのフライトで到着するとすぐにTAFEへ向かい、そのまま夕方まで授業。初日からタフなスケジュールだったが、学生たちは不満一つ漏らさなかった。参加学生全員、よく頑張ったと思う。

福岡国際医療福祉大学医療学部言語聴覚学科の吉崎菜那さんは「現地では生活習慣病や皮膚がんなどの健康問題が多く、オーストラリア政府は国を挙げて対策を行っていることに感心した」と言い、同学部理学療法学科の草木迫海さんは「世界遺産のグレートバリアリーフ、世界最古の熱帯雨林など、日本とは違う自然の豊かさに感動した」と話している。

国際交流センター・総合教育センター 福井讓准教授



●TAFEケアンズでの看護実習の様子

オーストラリア グリフィス大学

日豪の違い、福祉の現場で知る

10日間の研修には①英語コミュニケーション能力の向上、②異文化理解——の2つの大きな意義があるが、グリフィス大の非英語母国語者向けの英語指導における専門性の高い教師の指導は貴重だった。また、現地の医療福祉現場での体験は自国の医療福祉の特徴を概観することにつながった。

国際医療福祉大学保健医療学部看護学科の佐藤みゆりさんは「9時間かけて降り立ったブリスベン、2月だったが夏らしい日差しと海風で快適な気候だった。施設見学で医療福祉の実態を肌で感じ、その違いを学んだ。この経験を今後の勉学だけでなく人生にも生かしていきたい」という。

保健医療学部看護学科 荒川博美教授



●大学附属病院でのICUを見学

中国 中国リハビリテーション研究センター (CRRC)

東洋医学など多様な医療技術学ぶ

北京の中国リハビリテーション研究センター (CRRC) での11日間の研修では、同国最大かつ最も歴史のあるリハビリテーション施設で鍼灸やあんま、漢方生薬など東洋医学的アプローチを含む多様な医療技術を学んだ。

学生たちは出身学科ごとに異なる研修を受けたが、薬学部薬学科の河田怜子さんは「漢方では西洋薬と異なり1袋で1日分が処方されること、植物由来薬もあることなども学んだ。服用への抵抗感を患者さんにうかがうと『それで病気が治るなら』という答えが返ってきた。文化の違いを理解し、患者さんの背景を考慮しなければ、と感じた」という。



●薬学科の学生は調剤体験を行った

福岡薬学部薬学科 窪田香織准教授

シンガポール シンガポール工科大学 (SIT)

学生主体の活発な議論

シンガポール工科大学を中心に、現地の総合病院、シニアケアセンターなどを見学した。同大学の理念はさまざまな問題に取り組み、ニーズを満たす解決策を生み出すこと。学生が主体的に行う環境の中で活発に議論が交わされていた。本学の学生たちもSITの学生やケアセンターの利用者との交流に積極的に挑戦しており、頼もしく感じた。

成田保健医療学部作業療法学科の福田光咲季さんは「病院内に一般的な家屋環境が供えられ、退院前に生活能力を確認でき、利用者が楽しむ姿が印象的だった。現地の学生とも討論し高度な体験ができた」と話していた。

福岡保健医療学部看護学科 日高陵好教授
成田保健医療学部作業療法学科 寛智裕講師



●施設見学の様子

イギリス イーストアングリア大学

日本にない手術室専門の職種ODP

歴史あるイギリスの医療事情や社会について各キャンパスからの14人は充実した内容を学ぶことができた。大学の教職員たちは、医療関連の講義や演習、病院見学を具体的にわかりやすく説明してくれた。

成田看護学部の小澤諭貴穂さんは「理学療法士、作業療法士、看護師、助産師のほか、イギリスには手術室専門に働く専門の職種ODP (Operating Department Practitioner) があるという日本との違いも知った。勉強ばかりでなく、紅茶、フィッシュアンドチップスなどの食文化に触れることもできた。より広い視野を持って成長したい」と語っていた。

国際医療福祉大学医療福祉・マネジメント学科 若林功准教授
福岡国際医療福祉大学医療学部診療放射線学科 加藤明子講師



●ブリックリング・ホールでの集合写真

シンガポール ナンヤン・ポリテクニク

先進国が抱える問題を意識

今回の研修ではナンヤン・ポリテクニク (NYP) の学内施設のほか、高齢者のためのコミュニティーセンター、玩具会社、障がい者用の用具開発を行う施設など地域の医療福祉にかかわる施設や活動を体験・見学させてもらった。政府が進める慢性病対策プログラムなど先進国が抱える問題についても考えることができた。

福岡保健医療学部医学検査学科の佐田稀菜さんは「シミュレーションを通して迅速・適切な対応力や判断力を養い、状況に応じた優先順位を考える重要性を学んだ」と話していた。現地の学生との交流もでき、忘れられない貴重な経験となった。

成田総合教育センター語学教育部 野口浩子准教授



●シンガポールの慢性病対策プログラムを学ぶ

ポーランド プロツワフ医科大学

歴史に起因する倫理観学ぶ

ポーランド西部にあるプロツワフ医科大学では世界各国から学生を受け入れており、ポーランド語、英語で講義が行われる。今回は医学だけでなく、ポーランド戦史、宗教的歴史に起因する倫理観、価値観まで幅広いテーマに触れることができた。

成田看護学部看護学科の見好春菜さんは「法医学博物館、解剖学博物館のほか、プロツワフ市内の薬学博物館も見学できた。薬学博物館では薬学の歴史とプロツワフにおける薬局の歩みなども学んだ。自分の視野の狭さに気づかされる研修で、特に倫理観で考えを改めるきっかけとなった」と話している。

福岡保健医療学部医学検査学科 森山良太助教



●シミュレーションセンターの腹部模型を前に

ベトナム ハノイ医科大学

学生同士が鼓舞して理解

研修は、現地到着の翌日からハノイ医科大学とバックマイ病院の見学を行った。参加学生10人は全員が2年生で、当初は各部署での専門性の高い説明などに戸惑う様子があったが、徐々に学生同士が鼓舞しながら理解し、学び取ろうとしてきた姿が頼もしかった。

福岡国際医療福祉大学医療学部言語聴覚学科の上野真結さんは「言葉が通じない時でも、ジェスチャーや翻訳アプリ、つたない英語などで気持ちを伝えようとする姿勢の大切さを学ぶことができた。ベトナムの社会問題や現状、家族を大切に思う文化を、身をもって理解できた」と話していた。

福岡国際医療福祉大学看護学部 堀内美由紀教授
赤坂心理・医療福祉マネジメント学部心理学科 西村 信子准教授



●現地の学生たちと兜を折った

台湾 元培医事科技大ほか

冬季初の台湾研修で知る日台の違い

福岡国際医療福祉大学12人、大川キャンパス2人、東京赤坂キャンパス1人、成田キャンパス5人の計20人が、冬季で初の台湾研修に参加した。台安醫院では健康増進、新竹臺大分院ではAIによる自動化など、各施設それぞれの取り組みが興味深かった。ボランティアの現地学生が常に付き添ってくれたので心強かった。

福岡国際医療福祉大学医療学部言語聴覚学科の浦川彩葉さんは「実習見学のほか、医療、保健制度や文化における日本との違いを学んだ。言語、文化、制度の違いを肌で感じながらIT技術を活用した医療の在り方について考える機会になった。今後の学びに生かしていきたい」と語っていた。

成田保健医療学部医学検査学科 藤岡美幸教授



●元培医事科技大学内の施設の説明を聞く

ベトナム ホーチミン医科薬科大学

ベトナムの急速な発展目の当たりに

研修開始当初、現地の方たちとコミュニケーションを取ろうという意識の乏しかった学生たちも、言葉が通じない環境に置かれ、必要に迫られてか改善していった。帰国後には英会話能力を上げるための勉強に励みたいと真剣に語る学生が何人もいて、心強かった。

小田原保健医療学部看護学科の渡井結貴さんは「昨年まで患者2人で使用していたベッドが今年は1人で使用できるようになった。紙カルテから電子カルテへの移行も進んでいる。ベトナムの発展を目の当たりにした。医療技術や知識を習得し、医療の発展に貢献できる方法を模索したいと強く感じた」という。

成田保健医療学部作業療法学科 光金正官准教授



●ホーチミン医科薬科大学学生たちと交流するトモダチアワー

ハンガリー センメルワイス大学

日ハンガリーの意外な共通点を発見

学生たちは今回の研修で、ハンガリーと日本の間に多くの共通点があることに驚いたのではないだろうか。姓が名前より前に来て、蒙古斑もあり、国名の呼称が国内外で違う…。第2次世界大戦では同じ枢軸国側だったことも。歴史、文化、人種的な共通点を発見したのも大きな成果だ。

成田看護学部看護学科の藤原希さんは「授業では学生が指名された回数が多く、自分で考え、自分のことばで発表する過程で深い理解につながったと思う。職種ごとの職務内容や文化の相違点を実際の体験を通して学ぶことができた。貴重な体験を踏み台に一層学習に力を入れていきたい」と話していた。

福岡保健医療学部理学療法学科 森本幸生教授



●センメルワイス大学からいただいた修了証書を手に

タイ クリスチャン大学

細かい気配り、タイのホスピタリティ

盛りだくさんのスケジュールだったが体調を崩すことなく安全に終了でき、ほっとしている。相手を尊重し、細やかな気配りをいとわない、タイ王国ならではのホスピタリティによるものだろう。学生にはこれを将来の患者さんへの対応に生かしてほしい。

福岡保健医療学部医学検査学科の久久保遼さんは「クリスチャン大学での講義、キャンパスツアーのほか、ベンバオ総合病院など3つの病院を見学し、タイのマッサージ、王宮見学などを通して、タイの医療事情を知り、日本との共通点、相違点を知ることができた。コミュニケーションの壁も乗り越えることができた」と話していた。

成田保健医療学部言語聴覚学科 大森智裕講師



●タイ伝統マッサージ学校でタイ式マッサージの演習に参加

マレーシア マネジメント&サイエンス大学

伝統的な鍼をリハビリに活用

大学での研修に加え、国立血液センターとチェラス・リハビリテーション病院を見学した。マレーシアでは献血から採血、製造、供給までを一括して管理しており、日本との違いを実感した。伝統的なマッサージや鍼(はり)までがリハビリで活用されている点も印象的だった。多文化が共存するマレーシアでの経験は、学生に国際的な視点を育む貴重な機会だった。

医学検査学科の福山さくらさんは「医学検査学科の学生は採血、理学療法学科の学生は柔軟性の測定、というように専門分野に応じた実習が行われた。現地の学生からも指導を受け、積極的に取り組むことができ、大変有意義だった」と語っている。

福岡国際医療福祉大学医療学部視能訓練学科 松藤佳名子准教授



●心臓マッサージの説明を熱心に聞く学生



開学30周年特別企画

今年、開学30周年を迎えた国際医療福祉大学。11月1日には開学30周年記念式典、続く2日・3日には大学祭と同時開催の同窓会を行い、ゆかりの方々とともに開学30周年をお祝いします。1995年6月30日、第1号を発行して以来続く広報誌IUHWでも今号より4回にわたり、開学30周年を祝して特別企画を実施します。まず特別企画第一弾の今号では、「写真で振り返る開学の地『大田原キャンパス』」をお届けします。



写真で振り返る開学の地『大田原キャンパス』

国際医療福祉大学の5キャンパスのうち、最も広い敷地面積を持つ大田原キャンパス。現在では保健医療学部、医療福祉学部、薬学部の3学部9学科を擁し、約3,900人の学生が学ぶキャンパスだが、1995年の開学時は保健学部（2007年、保健医療

学部（改称）の5学科でのスタートだった。教育・医療・福祉が一体となった理想的な環境の下、数多くの学生が学部・学科を越えてつながり、優秀な医療人として巣立った。30年間、学生を見守り続けた大田原キャンパスの変遷を写真で振り返る。

1944年

約80年前のキャンパス 金丸原 旧陸軍飛行場



大田原キャンパスのあった場所は金丸原台地と呼ばれ、旧陸軍第14師団の特設演習場の一部だった。1935（昭和10）年に旧所沢陸軍飛行学校金丸原分教場に指定され、1944（昭19）年には実戦上の重要な基地として、多くの特攻機を離陸させている。

1992年

大学建設予定地



190,034㎡の広大な敷地に建設されることになった。

2000年

国際医療福祉大学リハビリテーションセンター L棟（大学院棟）竣工



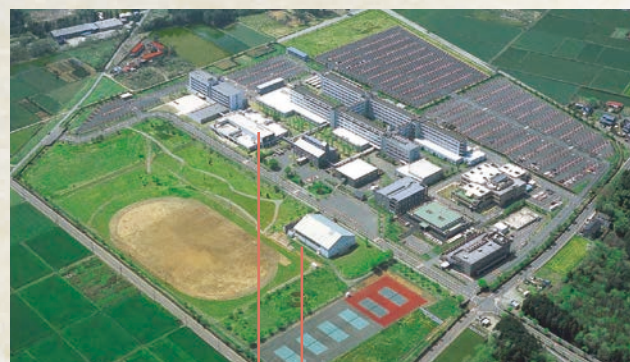
●L棟（大学院棟）



●国際医療福祉大学リハビリテーションセンター

2005年

薬学部棟、多目的施設「那須アスリーナ」 （1階・武道場、2階・レストラン、3階・弓道場）竣工



●薬学部棟



●那須アスリーナ

2010年

特別養護老人ホーム おおたわら風花苑、 児童心理治療施設 那須こどもの家、竣工



●特別養護老人ホーム
おおたわら風花苑



●児童心理治療施設
那須こどもの家

2025年

現在の大田原キャンパス



広大なキャンパス内には、障害者支援施設やリハビリテーション施設、特別養護老人ホーム、栃木県で唯一の児童心理治療施設、認定こども園、アジア有数の言語聴覚センターを持つクリニックなど、6つの医療福祉施設を併設している。これらの施設は地域医療を支えるとともに、学生の健康管理や実習先、ボランティア活動先となり、学生の学びをバックアップしている。8月には医学検査棟が竣工予定。

（写真は2025年3月撮影）

1994年

1995年の開学をめざして進む建設

大学新設のニュースはメディアにも取り上げられた。



●桜苗木を植える千保一夫大田原市長（当時）、高木邦格理事長



●「読売新聞」1994年12月7日

●「日本経済新聞」
1992年8月5日

1995年

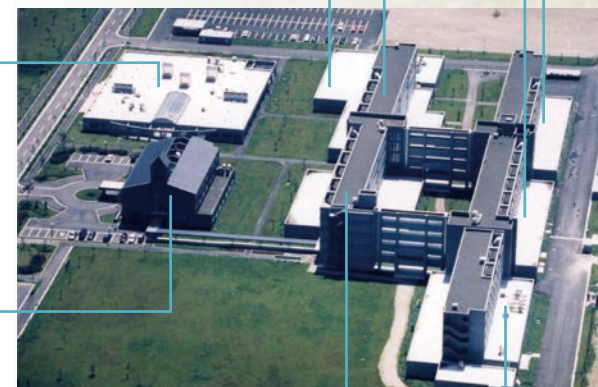
開学



●図書館



●G棟



開学を目前にして、A・B・C棟（実験実習棟）、D・E棟（講義棟）、G棟（管理棟）、I棟（カフェテリア）、H棟（体育館）が竣工した。



第1回入学式

阪神大震災が発生し、混乱のなかで行われた第1回入学試験。4月8日には無事、第1回の入学式を行うことができた。

ご寄附のお願い

優秀な医療人を1人でも多く育てるために…

開学30周年という記念すべき年を迎えた国際医療福祉大学は、ほぼすべての医療福祉専門職を養成することができる数少ない大学のひとつとして、これからも高度な教育・研究のための環境を向上して所存です。開学から30年という月日が過ぎ、学生や教員が代々大切に使用してきた施設・設備も老朽化してきました。これから本学で学ぶ学生たちが、整備の行き届いた環境で充実した学生生活を送るために、キャンパス各所の修繕を含め教育環境を整えてまいります。このためには、財政基盤のさらなる充実が必要です。将来の医療福祉分野を牽引する医療人を1人でも多く育てるために、ぜひみなさまからのご寄附をお願いいたします。



amazonふるさと納税

「母校を支援したい」という想いが、より気軽に実現可能に！

国際医療福祉大学のキャンパスがある大田原市・大川市では、市内の高等教育充実を支援するため、ふるさと納税を活用した事業補助金制度を設けています。寄附は、「amazonふるさと納税サイト」で受付可能です。ふるさと納税の寄附金は、教育

研究活動の支援や魅力あるキャンパスづくりに活用されます。本学のキャンパスがこれからももっと多くの学生たちの集う、魅力的なキャンパスであり続けるために、ぜひご支援をお願いします。

大田原市・大川市 大学支援事業寄附金について

- 大学支援事業寄附金を指定して、大田原市・大川市にふるさと納税すると、寄附金の95%が大田原市・大川市から国際医療福祉大学に補助金として交付される。
 - 上限額*までは、いくら寄附しても実質負担は2,000円。
 - 大田原市・大川市在住の方でも寄附できます。
- ※上限額は収入や家族構成等によって決まる。

【amazonふるさと納税サイト】

大田原版▼



大川版▼



国際医療福祉大学開学30周年記念募金

学生たちのより充実した学びのために ご支援をお願いします！

開学30周年を迎え、より一層の教育の質の向上をめざすにあたり、本学の取り組みを深くご理解いただき、これまで力強く支えてくださった皆様方に、温かいご支援をお願い申し上げます。皆様方からのご寄附は、教育・研究環境の整備に活用させていただきます。国内外問わず活躍できる優れた医療人を1人でも多く育てることを通じ、より安全・安心な医療福祉の提供に貢献していきます。ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

お問い合わせ窓口

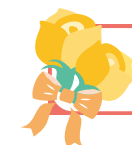
学校法人 国際医療福祉大学
「開学30周年記念募金」事務局

〒107-8402 東京都港区赤坂4-1-26 (東京赤坂キャンパス内)
TEL.03-5574-3900 E-mail : 30-bokin@iuhw.ac.jp

30周年記念募金 募集概要

1. 募金名称 国際医療福祉大学開学30周年記念募金
 2. 募金目的 大学各キャンパスおよび附属施設の教育研究環境の充実を図るための以下の資金に充当
 - 学部・大学院研究機能の強化
 - 校舎や運動施設の整備
 - 奨学金の充実
 - 基礎医学の教育研究強化
 - 薬剤師育成に向けた学修環境の充実
 3. 募集期間 2023年6月～2026年6月
 4. 目標額 30億円
 5. 募金金額 個人 1口 10,000円
法人 1口 100,000円
- ※ご寄附は任意でございます。

詳しくはこちら▼



開学30年にあたって 第1期生からのメッセージ



30年前、真新しい大田原キャンパスに大きな希望を胸に入学した第1期生。開学時の本学を知る第1期生から30周年を祝し、寄せられたメッセージを紹介する。

国際医療福祉大学 同窓会
『マロニエ会』サイトにログインして
母校や同窓生とつながりましょう！

国際医療福祉大学 同窓会
『マロニエ会』サイトはこちら



国際医療福祉大学とLINEで
友だちになりませんか？
母校の最新情報に触れられます！

LINE友だち追加はこちら
@889usywa



●第1期生の入学式

理学療法学科 1期生

マロニエ会 代表幹事
成田保健医療学部長
理学療法学科長

西田 裕介



本学は2025年で開学30周年を迎えます。日本初の医療福祉の総合大学としてスタートした本学はこれまで、日本の保健・医療・福祉の専門職養成教育の最先端を担ってきた実績があります。この度、30周年を記念して、広報誌「IUHW」において卒業生のリレーメッセージを企画しました。今後も、多くの卒業生の皆さんのメッセージを掲載していきます。その他、「同窓会名簿の再整備」ならびに「寄附金事業」もスタートしております。今後さまざまな事業を展開していきますので、活動へのご賛同をいただけますと幸いです。

今後も同窓生の皆様には、本学同窓会「マロニエ会」の活動に、より一層のお力添え、ならびに温かなご支援をいただきますようお願いいたします。

理学療法学科 1期生

東京慈恵会医科大学附属柏病院

リハビリテーション科技師長 樋口 謙次



開学30周年、おめでとうございます。私が理学療法士として成長を遂げることができたのは、ここで培った学びと経験のおかげであると心から感じています。学生時代の思い出を振り返ると、新入生歓迎24時間リレーマラソン、笑運動会、1000問試験、学生での学会発表など多くのことを経験し、仲間や先生方と一緒に大学を作れたことを誇りに思っています。母校の歩みは大変輝かしく、常に医療界で先頭に立つ大学であると感じています。卒業生として誇りに思うのは、多くの卒業生を輩出し続け、その仲間たちが各地で活躍していることです。私たちの学校が持つ力の証明であると思います。最後に、これからも母校の更なる発展を祈念いたします。

言語聴覚学科 1期生

防衛省防衛医科大学校

耳鼻咽喉科学講座 助教 谷合 信一



開学30周年おめでとうございます。私が最初に大田原キャンパスを訪れたのは、開学前の入試だったと思います。当時はバス停の周りに建物が何もなく、那須おろしで舞い上がった砂埃に消えるバス停をみて、すごいところに来たな、と思ったことを覚えています。その後の大学の凄まじい発展ぶりは、卒業生の一人として大変うれしく、また心強く思っております。先日、恩師の退任記念講演会のため大田原キャンパスに行きました。ちょうど桜が満開で、在学当時はまだ小さかった中庭の桜の枝が立派になり、たくさんのお花をつけていて本当に綺麗でした。1期生が卒業時に体育館脇に植樹した「とちの木」がどうなっているか気になります。再訪した際に成長ぶりを確認したいと思います。

看護学科 1期生

大東文化大学スポーツ・健康科学部看護学科
教授 王 麗華



IUHW大田原キャンパスの開学30周年、おめでとうございます！

1995年の春に私たちが第1期生として新たな学びの旅を始めてから、30年という大きな節目を迎えられたとのこと、とても感慨深いです。

当時はキャンパスの草創期で、すべてが新鮮で希望に満ちた日々だったと記憶しています。ここで看護をはじめとするさまざまな医療技術が学ばれ、その後もこのキャンパスは同窓生に支えられてきたと実感しています。

この30周年を機に、同窓生や教職員との絆がさらに深まり、IUHWのさらなる飛躍につながることを願っています。

作業療法学科 1期生

医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院

事務部長 今田 直樹



国際医療福祉大学30周年おめでとうございます。1995年、栃木県大田原市に日本初の医療福祉を専門とする総合大学として開学された本学の1期生であることを誇りに思います。当時は医療専門職を養成する私立大学教育の創生期だったこともあり、同級生は全国から集っていました。30年経った今でも、1期生の繋がりが続いていることは大変感慨深く、このご縁を紡いでくださいました高木邦格理事長、杉原素子初代作業療法学科学科長には感謝申し上げます。

本学で学んだチーム医療は、事務部長として働く現在にも生かされています。この強みの発展が、今後も50周年・100周年と続くことを卒業生として祈念しております。

放射線・情報科学科 1期生

独立行政法人国際協力機構 東京センター

人間開発・計画調整課 課長 大里 圭一



開学30周年の佳節を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

大学生生活は学問だけでなく、先生方や仲間との出会い、そしてさまざまな経験を通して多様な価値観を養い、大田原の壮大な自然の中で自己探求をすることができました。模範となる先輩方が不在の1期生として、世の常識に囚われることなく、自らの人生を柔軟に築いていく夢と希望に満ちた日々のは記憶は、今も私の中で生き続け、成長を支える大切な基盤となっています。今後も本大学が、学生たちにとって更なる成長の場となり、輝かしい未来を切り開くことを期待しています。

2024年度 国家資格試験結果

2024年度の国家試験結果が発表された。「医師」は合格率100%で全国1位(新卒者・既卒者含む)となった。また、「介護福祉士」で8年連続100%、「保健師」は成田看護学部で6年連続100%を達成したほか、全学部全学科で全国合格率を上回る結果となった。

資格	キャンパス	合格率
医師	全 国	92.3%
	成 田	100% 合格率：全国単独 1 位(既卒者含む)
薬剤師	全 国	68.9%
	大田原	92.9%
看護師	全 国	90.1%
	大田原	98.3%
	成 田	100%
	小田原	98.8%
保健師	全 国	94.0%
	大田原	98.0%
	成 田	100% 6年連続
	小田原	96.0%
理学療法士	全 国	89.6%
	大田原	100%
	成 田	100%
	小田原	100%
	大 川	100%
作業療法士	全 国	85.8%
	大田原	98.9% 合格者数：全国 1 位(89人)
	成 田	97.7%
	小田原	95.1%
	大 川	100%

資格	キャンパス	合格率
言語聴覚士	全 国	72.9%
	大田原	98.7% 合格者数：全国 1 位(74人)
	成 田	91.7%
視能訓練士	大 川	97.3%
	全 国	96.8%
診療放射線技師	大田原	100% 合格者数：全国2位(47人)
	全 国	84.7%
	大田原	97.9% 合格者数：全国3位(95人)
	成 田	97.7%
臨床検査技師	全 国	84.6%
	成 田	98.9%
	大 川	97.6%
社会福祉士	全 国	56.3%
	大田原	85.7%
精神保健福祉士	全 国	70.7%
	大田原	94.9% 合格者数：全国2位(37人)
介護福祉士	全 国	66.7%
	大田原	100% 8年連続
	成 田	100%
臨床工学技士	全 国	78.9%
	成 田	100% 4年連続

★厚生労働省資料より本学調べ。全国合格率は全受験者の合格率。

本学合格率は2025年3月卒業生の合格率。医師は既卒者も含む合格率。

医師国家試験本学受験者127人全員合格 単独1位の合格率100%達成！

第119回医師国家試験の結果が3月14日に発表され、本学の受験者は全員合格した。今回の国家試験において、既卒と新卒を合わせた総数と私立大学の新卒で合格率100%を達成したのは本学のみとなる。本学医学部の学生の努力はもちろん、本学独自のカリキュラムや教員による国家試験対策などの指導力の高さを裏付ける結果となった。

本学医学部は海外の提携校などから推薦された留学生をフルスカラーシップで受け入れているほか、医学部生の7人に1人が留学生であることをはじめ、1～2年次のほとんどの授業を英語で行い、5～6年次には海外臨床実習を必修とするなど、他の医学部では見られない国際性に富んだ学修環境を実現している。今回の合格

者の中にも16人の留学生が含まれている。出身国別では、ベトナム6人、ミャンマー2人、モンゴル3人、カンボジア1人、インドネシア1人、韓国2人、中国1人となっている。

上記のうち13人のフルスカラーシップの留学生の大半は、来日してから日本語の読み書きを学び始め、入学後は医学の勉強とは別に日本語教育のサポートを受けながら、日本人と同じ条件で臨んだ医師国家試験に合格した。

合格したベトナム、ミャンマー、モンゴル、カンボジア、インドネシアの留学生は、来日当初の日本語教育を含めて、授業料、教材費、生活費、寮費等を、6年間にわたって本学が負担している奨学生だ。